

阿波女あきんど大賞

阿波女あきんど大賞とは、徳島の地域経済の活性化と女性の社会進出を支援するため、本市が各業界を代表する女性経営者とともに結成した「阿波女あきんど塾」が、阿波女の知恵と活力をいかし、徳島の経済活性化のため、活発に経済活動に取り組み、挑戦し続け、活躍している女性を応援する事業です。

令和6年度はSDGsが目指す「誰一人取り残さない社会」の実現に向けて取り組む2人の女性が表彰されました。

詳しくは
徳島市公式
noteへ



▲阿波女あきんど塾のみなさんがプレゼンターとなって受賞者へ花束と賞状を授与しました。

阿波女あきんど大賞 経営者部門

一般社団法人うみのこてらす

代表理事

かわべ

えみ

川邊 笑さん



2000年生まれ。筑波大学教育学類卒。関東の認定NPO法人で3年間学習支援インターンとして活動。その後「地域間格差・教育格差をなくしたい」と地元徳島へ戻り、居場所活動をはじめ。

どんな場所に生まれても その子らしい社会的自立が叶うよう、夢の伴走者でありたい

教員を志し、関東の大学へ進学。在学中のボランティア活動を通じて、貧困や不登校、虐待といった様々な問題に接したことをきっかけに、20歳で子ども支援を目的とした団体を設立。2023年に『一般社団法人うみのこてらす』として法人化し、現在は生まれ育った牟岐町を中心とした海部郡域と徳島市で活動されています。

過疎化、少子化といった問題は、地方で暮らす子どもたちにも大きな影響を及ぼしていると話す川邊さん。学習や体験機会喪失、小・中学校を通して1度もクラス替えがなく、少人数が故の逃げ場のない人間関係に生きづらさを感じている子も少なくないそうです。「こうした教育格差、地域間格差により人生をあきらめてしまう子を日本中からゼロにしたい。そのために地方から現状を変えていきたい。過疎地に生まれても多様な人と繋がり、学ぶ環境があり、その子らしい社会的自立が叶うよう、粘り強く向き合い、伴走していきたい」と、子どもの居場所づくり事業を核に、地域との交流を目的とした「てらす食堂」の運営、ひきこもり傾向の子どもたちへの訪問型学び支援「ホームフレンド事業」を展開。学校や企業、専門機関と連携しながら

徳島発の子ども支援モデルの確立を目指されています。

授賞式では「5年後には徳島県内に、10年後には日本中の地方に、この活動を広めたい」という目標を掲げ、会場から大きな拍手が贈られました。



▲活動の様子。海部郡域だけでなく、徳島市内にも拠点を設け、徳島市内の中高生を対象とした「居場所cafe」を運営しています。大学生と連携し、様々なロールモデルと子どもたちが接することのできる場所として毎月第1、3金曜の夕方に万代中央ふ頭の『クレエール』の一角で開催しています。詳しい内容はInstagram、公式LINEで発信中。

・場所：徳島市万代町5丁目71-4 クレエール内

・利用方法：事前登録不要。質問等はDMが公式LINEへ。



一般社団法人
うみのこてらす



ホームページから
寄附も受付中！

阿波女あきんど大賞 個人・グループ部門

株式会社阿波銀行 国府支店

支店長 山田洋子さん



2000年に総合職として入行。入行当初から融資営業を希望し、本部の融資案件審査部門や法人融資案件を担当する融資役席も経験。行内の女性活躍推進にも携わり、後進のための新たな道を切り拓いている。

女性ならではの共感力をいかし、 大好きな徳島を、みんなと一緒に元気にしたい！

「入行当初からお客さまの元へ出向いてお話をお聞きし、一緒に地域を盛り上げていきたいという気持ちが強く、『法人営業を担当したい』と希望していた」という山田さん。審査部の案件審査係などを経て念願の法人営業を担当することになると、好奇心旺盛な性格も相まって、担当者や経営者に話を聞き、現場の声や課題を丁寧に収集。企業の成長を支援しようと奮闘する山田さんの姿に、法人営業＝男性という行内外のイメージも変化していったといいます。

こうした経験から「私のように法人営業を希望する女性行員もいるかもしれない」と、事業性融資業務に強い女性行員を育成するプロジェクト「LIT」を立案。また、行内の女性活躍推進のための制度改革に関わる「AWAdONNA（アワドンナ）」プロジェクト発足にも携わり、女性が働きやすい職場環境の整備にも尽力しました。

さらに自身の産休、育休経験を反映し、「ママWAdONNA（ママワドンナ）」プロジェクトも手掛け、妊娠中から育児休暇中、職場復帰、子育て期などその時々に必要なサービスや支援を受けられる仕組みづくりにも着手。プレパパマ

マ研修会や託児サービス、ママ同士の交流会などを通じて、仕事と子育ての両立をサポートしています。授賞式では「女性としていろいろな経験ができたことを感謝しています。誰もが笑顔で活躍できるように、これからもチャレンジを続けていきたい」と抱負を語りました。



▲「ママWAdONNA」プロジェクトの活動の様子。「ママWAdONNA」プロジェクトは育休中に思い付き、「復帰したらすぐやろう！」と心に決めていたそう。細やかな育休制度の説明や個別相談、スムーズな職場復帰をサポートする「復帰サポート留学」といったユニークなプログラムも。山田さんが関わるプロジェクトには自身の体験や共感力がいっています。

株式会社阿波銀行 <https://www.awabank.co.jp/>